

急変時の介護医学

急変を見抜くのは、利用者の生活を創っている介護職の力量にかかっています。
また、病状の安定のほとんどは、医師・看護師以上に介護職が握っています。
さらに、ケアの質を上げると診断が早まります。本セミナーでは、
病状管理の方程式をマスターし、急変時の見抜き方と考え方を学びます。

大阪

2017年

日時：3月4日(土) 10:30~15:50

会場：PLP会館(4階小B会議室)

(大阪府大阪市北区天神橋3-9-27)

☆JR大阪環状線「天満」駅改札口より南側へ徒歩5分

受講料：6,000円

きよふじ だいすけ
講師：清藤大輔

医師/介護老人保健施設・志木瑞穂の里施設長。



1994年、熊本大学医学部卒。

仙台市での在宅ホスピス勤務

医を経て、2003年より11年間、

老健施設の施設医を務める。

2014年より志木瑞穂の里副施設

長、2015年より同施設、施設

長に就任。

<プログラム>

10:30~11:30 ◎急変時とは

異常の早期発見と早期対応/慢性疾患の急性増悪/急変のリスク因子/事故防止の3つのレベル/急変時の介護ならではの役割/急変時の医師・看護師への報告の仕方

11:40~12:40 ◎急変時のサインと緊急性の高い症状

急な体調変化/急なADL低下/突然の激しい痛み/2回以上続く嘔吐/3食以上食べない/便の色の異常/バイタルサインのパニック値/時間単位での症状の変化/意識レベルの低下/体の一部の異常な動き/薬が原因の新規症状/けがと骨折

(昼食・休憩)

13:40~14:40 ◎急変時の症状別対応

高熱(38度以上)/誤嚥・窒息/呼吸困難/意識障害とせん妄/けいれん/てんかん/意識消失/激しい頭痛・胸痛・腹痛/吐血・下血/骨折/火傷/鼻血/低血糖発作

14:50~15:50 ◎2つ以上の症状の危険な組み合わせ

- ①意識レベルの低下+呼吸器症状、むくみ・息切れ、体の動きの異常、冷や汗、血圧低下
- ②頭痛+嘔吐、38度以上の発熱+脈90以上、入浴後+めまい、多量の排便+意識障害

主催

なるほどケア塾

〒189-0011 東京都東村山市恩多町3-39-13-101 ㈱円窓社内

お問い合わせ ☎042-306-3771

*受講票はお送りしません。満員でお断りする場合のみ一週間以内にご連絡をさし上げます。

*受講料は当日会場で承ります。

Fax: 042-306-3772

お申し込みは今すぐこちらへFax

<参加者名>

*施設の場合は施設名もご記入ください。

3/4(土)大阪

<参加人数>

名

<住所>〒

(自宅・職場)

<TEL>

<FAX>